# 伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第五主日礼拝 2020年7月5日

## 前奏:

招きのことば: 詩編92編1-4節

【賛歌。歌。安息日に。】

いかに楽しいことでしょう、主に感謝をささげることは。 いと高き神よ、御名をほめ歌い、朝ごとに、あなたの慈しみを 夜ごとに、あなたのまことを述べ伝えることは。 十弦の琴に合わせ、竪琴に合わせ、琴の調べに合わせて。

## 罪の悔い改めと赦しのことば:

会衆: 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。 思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に 罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。私たちは祈ります。私たちを救うため あ なたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アー メン。 (短い黙祷を持ちましょう)

**牧師**:何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン**。

## み言葉の部

## 使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。 生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず**、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 **アーメン**。

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたはイエス様を通して私たちに休息を与えてくださいます。イエス様は「疲れた人、重荷をおって苦労している人はわたしのもとに来なさい、あなたがたを休ませよう」言われました。 一日を振り返ったり、これまでの歩みを振り返る余裕の少ない私たちに、今朝も慰めと励ましのことばをお語りください。新しい一週間を、イエス様のお与えくださる安らぎをいただいて始めます。神様と交わり、人々を大切にするすばらしい一週間にしてください。あらゆる危険やわざわいから私たちをお守りください。

新型コロナ・ウィルスの2次感染拡大の心配を持ちながら、私たちは慎重に新しい生活を立て あげようとしています。今朝もあなたのみ言葉によって私たちを教え、新しい命の息吹で力づ けてください。今週も、私たちの遣わされている所で、御名のみ栄のために歩ませてください。 この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたし ます。 アーメン。

### 使徒書朗読:ローマ7章 15-25a節

わたしは、自分のしていることが分かりません。自分が望むことは実行せず、かえって憎んでいることをするからです。もし、望まないことを行っているとすれば、律法を善いものとして認めているわけになります。そして、そういうことを行っているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。わたしは、自分の内には、つまりわたしの肉には、善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はありますが、それを実行できないからです。わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。もし、わたしが望まないことをしているとすれば、それをしているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。それで、善をなそうと思う自分には、いつも悪が付きまとっているという法則に気づきます。「内なる人」としては神の律法を喜んでいますが、わたしの五体にはもう一つの法則があって心の法則と戦い、わたしを、五体の内にある罪の法則のとりこにしているのが分かります。わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるでしょうか。わたしたちの主イエス・キリストを通して神に感謝いたします。

## 福音書朗読:マタイによる福音書 11章 16-19、25-30節

今の時代を何にたとえたらよいか。広場に座って、ほかの者にこう呼びかけている子供たちに似ている。『笛を吹いたのに、踊ってくれなかった。葬式の歌をうたったのに、悲しんでくれなかった。』ヨハネが来て、食べも飲みもしないでいると、『あれは悪霊に取りつかれている』と言い、人の子が来て、飲み食いすると、『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ』と言う。しかし、知恵の正しさは、その働きによって証明される。」

このとき、イエスはこう言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御いに適うことでした。すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいません。疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」

## 讃美歌 514番

1. よわきものよ、われにすべて まかせよやと主はのたもう。 主によりて あがなわる、 わが身の幸はみな主にあり。

岩のごとくかたきこころ
 主によりて あがなわる、
 わが身の幸はみな主にあり。

われになにのいさおしあらん、ただ主の血にきよくせらる。
 主によりてあがなわる、わが身の幸はみな主にあり。

### 説教:「休ませてあげよう」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

疲れていませんか? 今日もイエス様のみ言葉によって、力を回復していただきましょう。イエス様は、マタイ 11:28 で、「疲れた人、重荷を負うものは、だれでもわたしのもとに来なさい、休ませてあげよう」と言われました。慰めに満ちたことばですね。ほっとしますね。今日、ここで皆さんに語ってくださるイエス様のことばです。今日はご一緒に、このみ言葉を味わいましょう。前後の文脈を見ながら、イエス様のお語りくださった意味をより深く味わってみましょう。

「疲れた人、重荷を負うもの」とは、どんな人のことを言っておられるのでしょうか。疲れた人、と言われているのは、一生懸命働いて疲れた人、気絶するくらいに精魂尽き果てて疲れ果てている人です。 箴言 18:14 に、人は病気の苦しみも忍耐することができても打ちひしがれた心には誰も耐えることはできない、と書いています。生きることに疲れてしまった、という疲れです。どんな強い、明るい人にも、人生の疲れはありますね。安心してください、イエス様は疲れた人はわたしのもとに来なさい、と言われます。

重荷を負うもの、と言われているのは荷物の積みすぎという意味です。エレベーターには一度に乗ることのできる人数と重さが記載されています。それを超えるとブザーが鳴ります。貨物船にも重量制限があります。危険です。聖書は罪があなたの重荷になっていることを指摘します。詩編38:5に、私の罪悪が頭を超えるほどになっていて耐え難い重荷になっている、と記されています。ぬぐい切れない罪責感が重くのしかかります。

そのような疲れた人、重荷を負っているひとは、わたしのもとに来なさい、とイエス様はお招きくださっています。疲れたままで、重荷を負っているままで来なさい、と言われます。私たちは苦しんで落ち込んでしまったとき、人前に出れるようになるまでじっと自分で心を整えて、身なりもきちんとできるまで何とか耐えようとします。でも、イエス様は、ぶさいくなままで、ずたずたのままで、来なさい、と言われます。

## なぜイエス様は私たちを招いておられるのでしょうか。

第1に、私たちはそのようなものであることを認めようとしないことがあるからです。私たちにはプライドがあります。何とか自分の力でやっていきたいと思いますし、そのように教育を受けています。自分でできるようになっていくことで自信もついて、人として歩めると考えています。しかし本当の自分は苦しんでいて、魂は「だれか助けて!」と叫んでいるのに、簡単に音を上げてはいけない、と声を押し殺すこともあるのです。イエス様は、町々村々を巡って人々の様子を見たときに、誰も、私は疲れ果てて重荷を負っています、とイエス様に言わなかったのに、人々は飼うもののない羊のように弱り果てていて、打ちひしがれているのをご覧になりました。そして神の国が来たことを伝える弟子たちを選んでお遣わしになりました。イエス様は神の国の福音そのものです。ご自分のもとに来なさい、と言われているのです。

### なぜイエス様は私たちを招いておられるのでしょうか。

第2に、イエス様のくびきは負いやすく、イエス様の荷物は軽いからです。11章30節にしるされています。疲れて、重荷を負っている人は、負いやすく軽いイエス様のくびきを代わりに負うように招かれています。私たちは、休みというと、いつもと違うことをして気分転換をしてリフレッシュすることを考えますね。いつも忙しいと、だらだらすることが気分転換になります。旅行に行ったり、コンサートに行ったり、友達とゆっくりおしゃべりしたり、ショッピングを楽しんだりするのが休みです。休みがおわると、また気力を消耗する生活に戻ることになります。イエス様の与える休みは少し違います。イエス様のくびきを負い、荷を負うことが休みになるのです。くびきというものをご存知でしょうか。牛が荷物を運んだり、畑を耕したりするとき、二匹並んで一緒に荷車や鋤を引いていくのですが、そのときに2頭がうまく並んでいくことができるように、それぞれの首を通すふたつの穴のあいた木の枠をはめるのです。くびきと言われるのはこの木の枠です。イエス様のくびきは負いやすい、という意味は、イエス様がひとつの穴に首を入れているので、あなたがもうひとつの方に首をいれなさい、という

ことです。イエス様が責任をもってあなたの行く道を導いてくださるので、安心し信頼して身 を任せていくということです。イエス様は隣にいて、横にいて、あなたの重荷を負ってくださ います。詩編 68:20 には「主は日々わたしたちを担い、救ってくださる」、と書かれていま す。あなたと同じ誘惑を経験し、人生の苦しみを通り、人の冷たさ、世のはかなさに絶望し、 自分の罪や弱さの自覚で追い込まれているそのままを、イエス様が担ってくださいます。イエ ス様は私たちの罪の罰を代わりに受けてくださり、洗礼によって罪を赦してくださいました。 聖餐でいつもイエス様が十字架で流された血は私のためであったことの確証をいただきます。 そしてイエス様は死の縄目を打ち破ってよみがえってくださいました。イエス様のくびきを負 っているものは、罪の赦しとともにこのあたらしいよみがえりの命にもあずかります。そのい のちははつらつと、自分らしく、神様と隣人を愛して役に立っていくいのちです。このいのち は、魂の安らぎです。神様の前に、罪赦され、あたらしい命が与えられて魂が安らいでいると、 これまでの日常がみずみずしい日々にかわります。すばらしい神様を喜びほめたたえます。人々 の重荷を見て放っておけなくなり、共に負いたくなります。イエス様のくびきを負って歩むと、 魂の安らぎを得て、休ませていただきながら、疲れないで、倒れてしまわないで生きていく命 溢れる活力がこみ上げてきます。魂の牧者、羊飼いであるイエス様のもとにくると、緑の牧場、 いこいの水際に伴われて、乏しいと思うことがなくなります。

### なぜイエス様は私たちを招いておられるのでしょうか。

第3は、柔和で謙遜なイエス様をさらに知るためです。イエス様はわたしに学びなさいと言われました。11章29節です。イエス様は柔和で謙遜です。柔和というのは軟弱ということと違います。権威や力があるのに、それを振りかざさして激しく強気で威圧的にならないで、その力を人を助けるために用いて優しく接する態度です。謙遜もそうです。イエス様はお高く留まらないで、子どもを無視せず時間をつくって交わりを楽しみました。人々から忌み嫌われる社会の底辺に暮らす人や税金取り、遊女、犯罪者という、罪びとと呼ばれる人たちもイエス様には気兼ねせず安心し、楽しく食事までごいっしょできると感じたのです。イエス様の謝遜さはこのように人を人として重んじる態度です。イエス様のくびきを負って歩む人は、人の見ているところでも、ひとりでいるときも、イエス様が柔和で謙遜な方であることをさらに知るようになります。そして自分も同じように歩むようになります。自己中心な働きをがんばり、休みは自分の欲を満たす生き方は古い生き方です。イエス様の招きにこたえて、イエス様のもとに行き、イエス様のくびきを負う人は、イエス様によって罪赦されて新しいいのちをいただき、イエス様のように神様の愛を受けて人々のために役立つことを喜びとして歩む安心と活力にあふれる毎日に変えられます。

イエス様は私たちに、「わたしのもとに来なさい、休ませてあげよう」と言われます。どうされますか。イザヤ 28:12 には、イスラエルの民「ここに休みがある、憩いの場がある」と語られたのに、彼らは聞こうとしなかった、と記されています。プライドがあります。誰の世話に

もならない、ちゃんとやっていく、ということでイエス様の招きに対しては拒否したのです。 そのような人は休みが必要なことを認めません。自分一人で生きようとして、傲慢と卑屈の間 を行き来します。人と比較して妥協の満足を得るか不満を抱えてそれを力の源にするかで本当 の安らぎのない寂しい歩みを変えません。柔和で謙遜な、気高く生きがいのある生涯を求めま せん。

イスラエルの民はエレミヤ記 2 章 20 節では自分からくびきを断ち切って、それでも大丈夫と 言いながら、神様から離れて毒々しい実を結ぶことになっています。

イエス様は私たちを招いています。幼子のような者に示してくださいました。多くの人は遠慮 したり後回しにしたり批判したりして、イエス様の招きを拒否します。神様が喜ばれるのは、 神様のお招きに私たちがお答えすることです。イエス様を通して私たちの罪を赦し、私たちに 新しい命を与えてくださる神様のお招きを、今日、感謝をして受け入れ、魂の平安を得て、イ エス様のくびきを負ってあなたの使命を喜びをもって生きるすばらしい一週間をどうぞお過ご しください。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いを守ってくださいます。アーメン。

## 聖餐の部

### 主の食卓を囲み 讃美歌 21 81番1節、2節

- 1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあって我らはひとつ。 (くりかえし) マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。**X2**
- 主の十字架を思い、主の復活をたたえ、主のみ国を待ち望み、主にあって我らは生きる。
  (くりかえし)

### 主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。 みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。 われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。 われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。 国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

#### 設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新

しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。 **アーメン**」

### 配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番

## 赦しの宣言

私たちの主イエス・キリストのまことのからだと、まことの血は、 あなたをきよめ、あなたを強め、永遠のいのちにいたらせてくださいます。 あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。**アーメン** 

## 主の食卓を囲み 讃美歌 21 81番3節

3. 主の呼びかけに応え、主の御言葉に従い、愛の息吹に満たされ、主にあって我らは歩む。 **(くりかえし) マラナ・タ、マラナ・タ、**主のみ国がきますように。**X2** 

## 讃美歌 338番 献金 献金感謝の祈り

1. 主よ 終わりまで仕えまつらん みそばはなれず おらせたまえ 世の戦いは はげしくとも 御旗のもとに おらせたまえ

2. 浮世の栄え 目を惑わし 誘いの声 耳にみちて こころむるもの うちとにあり 主よ わが盾と ならせたまえ

3. 静かにきよき みこえもて 名利のあらし しずめたまえ こころにさわぐ 波はなぎて わが主の御旨 さやにうつさん

4. 主よ 今ここに 誓いをたて しもべとなりて 仕えまつる 世にあるかぎり このこころを つねにかわらず もたせたまえ アーメン

## 頌栄: 讃美歌 543番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊のちからよ、あぁ、みさかえよ。アーメン。

### 祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、 豊かにありますように。**アーメン**。

## 後奏